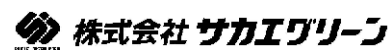
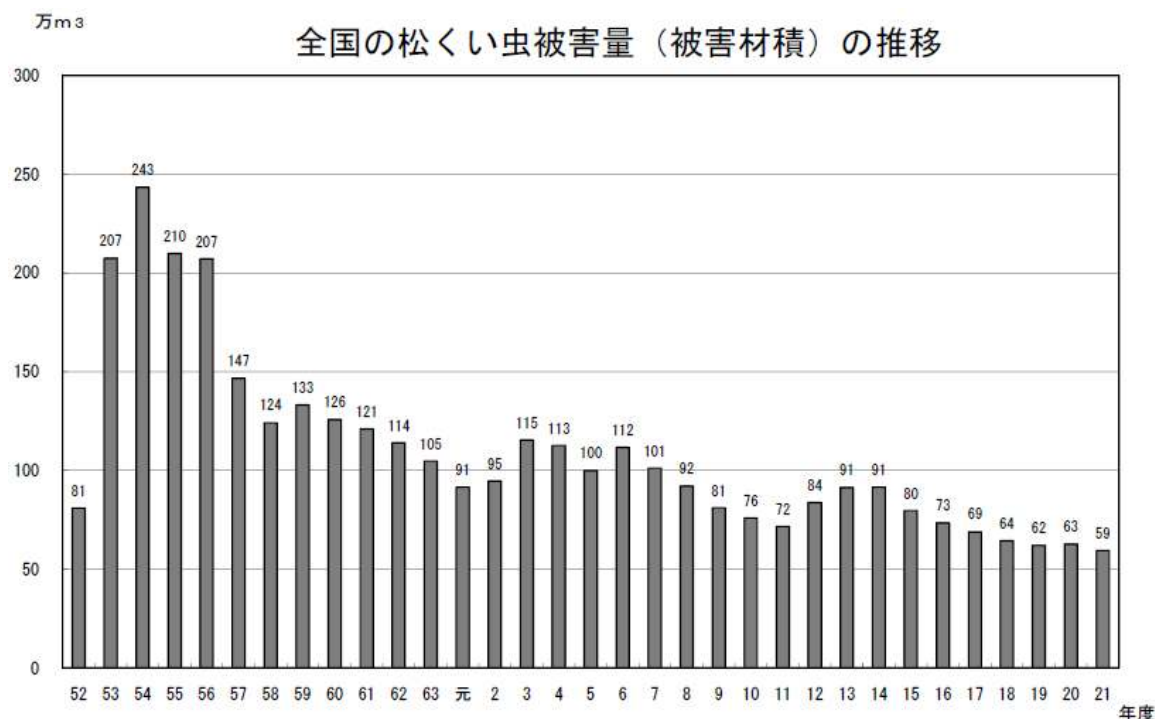


お客様各位



## 平成21年度の松くい虫被害状況について

松くい虫被害（マツ材線虫病）の被害状況は、例年8月に前年度分が林野庁により取りまとめられ、発表されています。平成22年8月31日に発表されたデータによると、平成21年度の松くい虫被害量（被害材積）は前年度から約30,000m<sup>3</sup>減の約590,000m<sup>3</sup>でした。平成20年度はわずかながら増加しましたが、21年度には調査開始以来最少となりました。全体としては減少傾向にあるものの、28年ぶりに新たな地域（青森県）での発生が確認され、もはや発生していない地域は北海道のみとなり、一部地域での拡大は続いていると言えます。



マツ材線虫病にかかったマツが年を越してしまうと、もう手の施しようがありません。特に注意すべきなのは、秋には外見上健全な個体が、年を越した後に枯死する「年越し枯れ」で、北陸では特に多いと言われています。一本がかかるとカミキリを媒介に周辺へ一気に拡大しますので、早めの対処が必要です。

松枯れ予防の樹幹注入剤は各種メーカーから販売されていますが、効果持続期間は3～5年※です（※樹幹注入剤の種類によって異なります）ので、以前施工された方も改めて前回の施工時期を確認し、再予防する必要があるかどうかチェックすることをお勧めします。

### ◆商品案内◆



#### グリングード・NEO（酒石酸モランテル剤）90ml/本

- 公的試験4年間の防除率97.4%という高い防除効果の「グリングード」シリーズは、松枯れ予防剤の中でもトップシェアを誇っています。
- 樹体に直接注入するので、ドリフトなどの心配がありません。
- 一度施工すると予防効果は5年間持続します。
- 従来品「グリングード」「グリングード・エイト」よりもコンパクトで、また寒冷地でも問題なく施工でき、薬効の持続期間も長くなりました。

メーカー希望価格：2,500円/本